

# 福島から新着報告 ～忘れないで 福島

# 福島を伝える会

2022.6 環境パネル展展示から

## ～東日本大震災～

### 11年目 被災地の光と影

「おら 村人だべ。震災で町に家建てたけど、いまだに街人(まぢと)にならんね」

小浜地区から原町区の町中に移住したものの 百姓が碎められない 75才の老夫婦。知人の畑を借り、震災で失った先祖からの屋敷跡に時々戻る。

沿岸地区の住民は、新たな場所に馴染まない。

津波に免れた公会堂に集う。かつての地区住民たちだ。



小浜地区公会堂に住民が集う 話が尽きない

## 【福島県相双地方全体地図】

相双地方は、東北に長 12 市町村で成り立っている。

西に阿武隈山脈。東に太平洋の地形で山林原野が続く地域だった。

ここに東京電力福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所が立地された。

当時「原発銀座」と呼ばれるほど町は豊かになった。

しかし、電源交付金を使い切る町行政は、重しい現実に至った。

そのような状況下、2011年3月11日「東日本大震災」と原発事故発生。

全住民の避難が始まった。

それから11年、相双地方はすべてを失い、住民の暮らしも一変した。



## 【双葉町・大熊町地図】

双葉町・大熊町と全地域特選困難区域



## 【双葉町】

- ★「特選困難区域」 未だに住民は住めない。国道6号線のみ通行可
- ★「特定復興再生拠点区域」により、一部避難指示を解除し居住を可能にした
- ★解除された両竹地区に、「イノベーション・コースト構想」として、「原子力災害伝承館」「産業交流センター会館」オープン、人の動きは日中のみ



## 【大熊町】

★ 全町「特選困難区域」。浪江町・双葉町同様国道15号線沿いは除却

★ 「特定復興再生拠点区域」によって、大川原地区に役場を建設

★ 災害住宅を中心に、コミュニティまちづくりを進めている

★ 役員職員、卒業生は避難先から通勤



## 【富岡町】

★ 富岡町は、駅前近辺と役場周辺の復興復旧を進めている

★ 富岡港、富岡駅から国道6号線への路線橋建設中

★ 福島第一原子力発電所で働く人々の、長期宿泊地として賑わう

★ 住民の働き所夜ノ森仮営舎も3月のみ解放。立ち入り可能

役場周辺に「イノベーション・コースト構想」の研究施設が並ぶ



## 【南相馬市】

★ 南相馬市は、原発で20 km圏内・圏外、30 km圏内・圏外と区分けされた

★ 津波による死者636人。震災関連死530人(含 仮死)

★ 壊滅した北置向地区は、「イノベーション・コースト構想」により

「ロケットアストフィールド」及び「復興工業団地」として稼働。住民は

「置向地区復興団地」やその他に移り、これまでのコミュニティを失う



## 【浪江町】

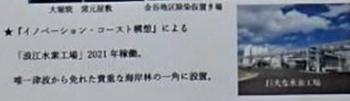
★ 浪江町も津波、原発事故で大きな被害を受けた

★ 困難区域解除により、浪江町は復旧したが

「居住危険地域」に指定。見直し要地

ほぼ完成した浪江島浦に活気が戻り、避難者も増え始めた

浪江小学校は、当時のまま「震災遺構」として昨年公開



## ～10年経っても続く余震

いつ終わるのか～

★ 2020年2月13日23時03分 福島県沖震源地地震発生

相馬地方震度6弱。相馬市・新地町被害甚大

★ 2022年3月16日23時36分頃 福島県沖震源地地震発生

相馬地方震度6強。南相馬市置向区・相馬市・新地町は前年より被害甚大

★ 高速道路、国道、県道、その他 陥没・亀裂の被害。各公共施設の損壊

相馬市は、城下町で古い家が多く被害が多発

被災調査は続く

★ 原発事故と異なり、補償金は出ない

★ 家屋の補助金は出るが、家を建て直すには足りない

老後の暮らしを家屋建設にする住民。それも困難で

傾いた家に住み続け、体調を崩す住民もいる

★ 松川浦の宿泊施設は津波で被災。ようやく営業が

軌道に乗った矢先、2年続く地震で被害が

大きくなった。宿泊業の半数が廃業を決定する。登録地松川浦の存続に係る

★ 相馬港湾、新地火力発電所の復旧の目途が立たない。



## 【中間貯蔵施設建設経過】

2011年3月11日、東京電力福島第一発電所事故で、放射性廃棄物廃棄物が大量に発生。

2013年から始まった作業が地続き。同時に放射性廃棄物貯蔵庫の設置が急がれた。仮置場設置数と、

広大な面積は拡大される。仮置場の放射性廃棄物フロンティアは、すでに経年劣化が始まり、住

民の不安の声が各地で上がる。

「中間貯蔵施設」の設置場所と建設は急がれた。国の設置要請を待たずに、双葉町・大熊町

が受け入れに至った。総面積14ha 実容量5万t、大熊町11ha になったが、2016年3月か

ら、放射性廃棄物処理施設への搬入が始まった。

2022年5月現在、放射性廃棄物搬入は続いている。

「中間貯蔵施設」建設・稼働に至るまでの経緯は、大変な作業の積み重ねによる。最終処分場は

国内外を巡り探している。しかし住民の不安は大きい。

